

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9 月 12 日
- 事業名 : 地域人権 FM 放送局開設事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体 : 茨木市人権三島地域協議会

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
一人暮らし高齢者やひとり親世帯など当事者へのインタビューやつながりづくり活動（参加の促しなど）の実施	①当事者のインタビュー ②ミニ FM 放送での情報発信	①年間 10 人程度 ②月 8 回の発信	2023 年 3 月	①インタビュー数 15 人 (50%) ②概ね週 1 回程度 (50%)	2
地域の関係機関団体と連携したイベント（地域交流事業・卓球大会・人権作品展など）の取材の実施や参加	①地域イベントへの参加や企画 ②地域に根ざしたテーマの学習教材づくり	①年間 6 回程度 ②年間 1 教材づくり	2023 年 3 月	① イベント参加数 6 回 (40%) ②報告書作成	2
地域の相談機関や民生委員やボランティアなどと連携した地域住民・当事者への周知活動の実施	①相談支援活動 ②ピアカウンセリング的なサポート	①相談件数年間 50 件 ②ピアカウンセリング数年間 5 件	2023 年 3 月	① 相談件数 30 件 (30%) ② サポート数 4 人 (30%)	3

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
手指消毒をはじめ、いわゆる「三密」の回避を徹底するとともに、対象者等へのスマホ相談会を継続して実施している。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
地域まちづくり協議会ニュースへの掲載、地域 NPO 団体の情報誌に掲載、
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等
2021年度事業報告書の作成

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業参加のインタビュー	事業参加の中学生および先生	三島中学校
内部	マイノリティ当事者へのアプローチ	精神科病院法人事務局長	茨木病院法人事務局長
内部	事業内容・ラジオ番組構成	元アナウンサー	アナウンサー養成校を主宰
外部	事業全般にかかわっての評価	コンサルタント	まちづくりコンサルタント

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
地域課題や被差別・社会的マイノリティ当事者の声を聴いたり、認識する人が増える	地域に住む住民・当事者との関係づくりができる		2024年2月	コロナの影響もあり、ますます地域での人や活動と触れる機会が減少していると思われる。個別のケースやかかわりを丁寧に行いながらじっくりと進めることが必要。
住んでいる地域を「誇りに思う」「自慢できる」「安心できる」人が増える。	地域住民の人権課題を認識する機会が増えるとともにつながりが深まる		2024年2月	番組作りや情報配信により、まずは関係者が、様々な地域課題に触れることができ、共有することができた。 また、取り組みを一にしながら進めることで、関係性が深まった。
生活の困りごとの解決や不安や怖れが軽減され、安心感を持つ人が増える。	情報が届きにくい人の発見・キャッチにつながる		2024年2月	相談やサポートには、その背景に安心感や信頼感の情勢が当然必要であり、継続したかかわりやつながりが必要。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>コロナ禍の中で、能動的、積極的な取り組みを進める事への不安や躊躇がある中で、地域活動やつながりが減少している。</p> <p>一方で、事業を継続することで、住民への周知やつながりが増え、新しい関係が生まれてきている。</p> <p>また、中学校との連携が進み、特に、地域防災の意識を高めることに関心が高まった。コロナ感染予防対策の取り組みを実施しながら、徐々に取り組みを進めている。</p> <p>後半の事業においては、地域住民やマイノリティ当事者との個別的、丁寧なかかわりやつながりづくりを意識しつつ、情報を発信していく必要がある。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	情報発信回数が、当初よりも少ない要因は何か	番組内容やコンテンツづくりに時間を要した。また、事業の周知を丁寧に行った。	当該事業が、単に FM 放送を配信することにとどまらず、地域住民や特に被差別マイノリティ住民の孤立化防止なども伴うことから、事業の周知や、内容づくりを丁寧に行った。 月 2 回の番組作成が定例化していることから継続して配信が行われると考える。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	当事者の発見および相談への対応への改善は何か	地域住民や当事者の不安や悩み、相談事については、地域の複数ある相談機関への誘導が適切である	事業を推進する中で、不安や悩みを抱える地域住民等のつながりができてきている。ただ、相談やサポートを実施するための関係性や信頼関係の構築には時間を要することから、地域に複数ある相談機関への誘導を行い、連携してサポートをすることが必要である。
組織基盤強化・環境整備	事業や取り組みを支えるボランティアやスタッフは増えたか。	地域活動へ関心を寄せ、参加協力いただける方が増えた。	事業を実施することにより、“おもしろい”“何か役に立ちたい”と取り組みへ積極的に参加される人が増えた。 また、新しい地域団体や期間とのネットワークを構築することができた。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

地域に密着した情報番組作りを進める中で、地域団体の情報誌などにも取り上げられ、話題や関心が高まった。また、地域の団体へのインタビューや番組への参加をいただく中で、関係者の地域課題の認識が高まったとともに、関係性が深まった。

その中で、様々なエピソードを聴くことができた。子どもの「食」の貧困問題、認知症高齢者の課題、精神医療の地域課題など…。こうしたエピソードを取りまとめていくことも検討され始めた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動やイベント、外出自粛を余儀なくされ続けたが、一方で地域での「つながり」の必要性や大切さを感じられた住民の方も多く、取り組みへの参加、関心が高まった。

また、事業評価を関係者で行うことで、改めて本事業の意義を言語化する過程で、本事業で解決したい社会課題や目標などを事業関係者で改めて見直し、共通認識を持つ機会になった。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価を実施したことにより、主なアウトカムにつながるアウトプットの阻害要因及び貢献要因を検証することができた。それにより新たなニーズや不足していた取組が明らかになった。これら調査結果を踏まえ、事業関係者との協議をしながら、今年の10月中に事業計画への反映完了を目指す。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

コロナ禍の中で地域活動やイベントが減少、つながりがますます希薄化する中で、地域住民やマイノリティ当事者の孤立化が進んでいることを踏まえ、地域情報の配信を増やすこと。

また、リスナー等との相互のやり取りの企画（投稿や事業参加企画など）を増やし、住民の関心や参加を促す。

さらに、当事者等の不安や悩みをキャッチした際には、地域にある複数の相談機関への誘導を図り、孤立化を防ぎたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

